

1. 第7回国際シンポジウム「帝国から地域大国へ，国家と非国家の間で」予告

本新学術領域研究の英語での最後の大会となる第7回国際シンポジウム“From Empire to Regional Power, between State and Non-state”（帝国から地域大国へ，国家と非国家の間で）を，2012年7月5－6日に開催します。第2班（内政），第5班（社会）の協力で予定されているセッションは次の通りです。[松里]

第7回国際シンポジウム

「帝国から地域大国へ，国家と非国家の間で」

日程：2012年7月5日（木）～6日（金）

会場：北海道大学スラブ研究センター大会議室

第1セッション 帝国と政治地理

諸帝国は，海，ステップ，山などのフロンティア・国境に限定されつつ，現代世界の政治地理の原型を作りあげた。

主要報告者：チャールズ・キング，ウラジーミル・ボブロフニコフ，野田仁

第2セッション 宗教政治とトランスナショナリズム

ロシアからのメッカ巡礼，印パ・アフガンを跨ぐムスリムの跨境活動，ロシア正教会の「教会法上の領域」概念を素材として，現代世界における主権国家と跨境アクター間関係を考察。

主要報告者：長縄宣博，サナ・ハルーン，ドゥミトウル・コテレア

第3セッション 地域大国の辺境と近隣外国を跨ぐ紛争

コーカサス，新疆，カシミールに注目しつつ，地域紛争のトランスナショナルな性格を明らかにする。

主要報告者：アルセネ・サラポフ，中溝和弥

第4セッション 競争的権威主義体制：理論的チャレンジ

「競争的権威主義体制」概念は政治学において確固たる地歩を占めたが，古典的権威主義体制やクライエントリズム民主制との間の境界線がさほど鮮明でない，アジアの競争的権威主義体制の経験を加味していないなどの今後の改善点を抱えている。

主要報告者：バーバラ・ジュニスバイ，鈴木絢女，田原史起

第5セッション 体制交替か，体制動態か？ 政治的揺れ戻しの比較研究

旧ソ連で2000年代の前半に色つき革命を経験した3国は，新体制が旧体制よりももっと権威主義化した（グルジア，クルグズスタン），新体制が国民生活を悪化させ次の選挙で惨敗した（ウクライナ）という揺れ戻しを経験した。

主要報告者：コリー・ウェルト，オレクシー・ハラニ，宇山智彦

第6セッション 地域大国の権威主義的エリートと支配言説

3 地域大国のうち中国とロシアは、古典的あるいは競争的権威主義体制であり、このような体制においては、エリート選抜や支配言説創出の技術が求められる。

主要報告者：グルナズ・シャラフトディノヴァ，唐亮

2. 第6回国際シンポジウム「近現代帝国の比較」開催される

2012年1月19～20日に、センターの冬期シンポジウムを兼ねた新学術領域研究第6回国際シンポジウム *Comparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order* (近現代帝国の比較：世界秩序変動の中での帝国統治と脱植民地化) が、スラブ研究センター大会議室で開かれました。新学術領域研究はロシア，中国，インドを主な対象としたものではありませんが，帝国比較のためにはさまざまな帝国を視野に入れる必要があること，帝国は帝国間および国民国家や小地域との関係性の中で機能してきたことから，今回のシンポジウムでは，日本，アメリカ，オスマン帝国，イラン，中央アジアに関する報告も入れました。

1日目は，ジェーン・バーバンク氏による，帝国が多様な社会をどのように統治し，近現代にどのように変化したかに関する基調講演に始まり，帝国の統治技術，イデオロギー，相互認識・歴史認識などを議論しました。特に議論の焦点になったのは，帝国中央とは異質な社会を統治する際の仲介者・協力者の存在であり，また帝国の保守主義と近代化の関係も話題になりました。2日目は，帝国の崩壊とその遺産，脱植民地化に対する諸大国の態度，アメリカの帝国性や中国の再帝国化の可能性などを議論しました。戦後インドの経済発展が可能になったのが，イギリス帝国の遺産や外国の援助を巧みに活用したためか，帝国支配の悪影響を克服したためかについては，相異なる見方が披露されました。

全体として，多様な話題について非常に活発な議論が繰り広げられ，帝国研究の世界的な発展と，その今日的な意義を，凝縮した形で感じ取ることができました。今回は，企画を担当した新学術領域研究第4班の班員がなるべく多く報告するという方針をとりましたが，日本人の報告の水準が高かったという評価を外国人ゲストの方々から戴けたのも嬉しいことでした。また，前日の1月18日には，プレシンポジウム・セミナーとしてセンター外国人研究員3人の報告会を開き，外国人研究員とシンポ参加者の交流を深めることもできました。会議の様態およびプログラムについては，次の新学術領域研究ウェブサイトからご覧ください。http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/center/essay/20120130_j.html [宇山]

3. 第5回全体集会開かれる

国際シンポジウムに引き続き、1月21日(土)午後には、新学術領域研究第5回全体集会「最終成果の出版に向けた報告会」が開かれました。本全体集会では、プロジェクトの最終成果となる出版物『ユーラシア比較地域大国論』(全6巻)に収められる予定の2本の論文を取り上げ、それぞれの執筆者によって、他のメンバーの前で報告が行われました。各報告の後には、討論者のコメントに続いて、フロアからも積極的な意見が出され、出版物の大まかな方向性について、各自で確認が行われました。[後藤]

報告：

1. 松里公孝(スラブ研究センター)・中溝和也(京都大学)
「民族領域主義と連邦制」
コメンテーター：山根聡(大阪大学)
2. 王柯(神戸大学)
「『公共空間』という戦略：ムスリムとして中国に生きる」
コメンテーター：安藤潤一郎(東海大学)

4. 第4班プロジェクト研究員の採用

2012年1月より、第4班プロジェクト研究員の福田宏さんがスラブ研究センターの助教に就任したこととともなって、第4班プロジェクト研究員の公募が行われました。募集に対して4人の方から応募があり、その中から厳正な審査の結果、高本康子さん〔前職は群馬大学非常勤講師〕が選ばれました。高本さんの研究テーマは近代における日本とチベットの関係史・交流史で、『近代日本におけるチベット像の形成と展開』などの著書があります。2012年3月1日から2013年3月31日まで、北海道大学スラブ研究センターで勤務される予定です。チベットおよびチベット仏教と、日本、中国、イギリス、ロシアとの関わりを、他のメンバーと議論することにより、比較帝国論研究に貢献することが期待されま
す。[宇山]

5. 外国人研究員の採用

新学術領域研究第1班外国人研究員の募集に対して、複数の応募者の中から厳選な審査の結果、モニカ・チャンソリア氏(Monika Chansoria)〔ランド戦争研究センター, Center for Land

Warfare Studies (CLAWS), New Delhi]の採用が決まりました。氏はインドと中国の軍事外交に関する国際関係をテーマとして、アジアにおける中国プレゼンスの影響力について研究されています。1月5日から3月13日までセンターに滞在しながら、様々な研究活動に従事される予定です。

また第6班の外国人研究員として、エレナ・イコンニコヴァ氏(Elena Ikonnikova)[サハリン国立大学]を招聘することが決まりました。イコンニコヴァ氏は比較文学・文学理論を専門としており、主としてサハリン・樺太に関わる日露の文学について研究されています。1月28日から3月28日までセンターに滞在されます。[越野]

6. 『比較地域大国論集』第7号の刊行

比較地域大国論集第7号として、宇山智彦編『比較帝国論の世界：新学術領域研究第4班中間成果』が刊行されました。下記3本の論文のほか、第4班が開いた研究会のうち15回分の概略と、大半の報告のレジюмеを収録しています。多くの論客による多様な帝国論の世界をお楽しみください。

宇山智彦 帝国の弱さ：ユーラシア近現代史から見る国家論と世界秩序

岡本隆司 「主権」の形成：20世紀初頭の中国とチベット・モンゴル

森まり子 民族自治から主権国家へ：帝国解体期のシオニズム運動における民族分離主義の変容 1881～1948

本書は、新学術領域研究ウェブサイトの「出版」のページからダウンロードできます。

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no07/contents.html>

[宇山]

7. ユーラシアをめぐる日印対話Ⅱ：中国との関係に向けて

スラブ研究センターと新学術領域研究の主催で、“Indo-Japanese Dialogue on Eurasia Ⅱ: Relations with China” (ユーラシアをめぐる日印対話Ⅱ：中国との関係にむけて)が開催されます。本会議は、2011年3月にスラブ研究センターで開かれたフォーラム「ユーラシアをめぐる日印対話」の続編にあたるもので、ロシアや中央アジアを含むユーラシア諸国についての様々な諸問題を、さらに深く掘り下げて議論することを目的としています。

インドや中国を含むこの地域の国々に様々なチャレンジがあるなかで、日本が近隣諸国とどのような関係を築いていくかということが、ますます重要性を増しています。ユーラシアの政治・国際関係・経済を専門とする両国の研究者が一同に会し、率直な議論を行う

ことによって、互いに中国と協力関係を築く上で日印間の信頼醸成につながるのみならず、ユーラシアの当事者たちによるユーラシア研究の新たな地平が切り開かれることになるでしょう。

詳細は次の通りです。本会合のテーマに関心のある方の幅広いご参加を歓迎します。参加ご希望の方は、事前に事務局までメールにてお問合せ願います。[岩下]

会場：北海道大学スラブ研究センター大会議室

日時：2012年2月27日 9:30～18:30

主催：スラブ研究センター，新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」

共催：グローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成 スラブ・ユーラシアと世界」

使用言語：英語

Program

9:30- Opening Address

10:00-12:30 Session 1 “International Relations and Political Alignment”

Chair: **Akira Ishii** (University of Tokyo, Japan)

Nandan Unnikrishnan (Observer Research Foundation, India)

K. Warikoo (Jawaharlal Nehru University, India)

Sanjay Kumar Pandey (Jawaharlal Nehru University, India)

Gupta Rukmani (Institute for Defence Studies and Analyses, India)

Yang Cheng (East China Normal University, China)

Yoshifumi Nakai (Gakushuin University, Japan)

Osamu Yoshida (Hiroshima University, Japan)

Shinji Hyodo (National Institute for Defense Studies, Japan)

13:30-15:30 Session 2 “Economy and Regional Order”

Chair: **Yuko Adachi** (Sophia University, Japan)

Arun Mohanty (Jawaharlal Nehru University, Eurasian Foundation, India)

C. P. Chandrasekhar (Jawaharlal Nehru University, India)

Li Zejian (Manufacturing Management Research Center, University of Tokyo, Japan)

Christopher Len (Institute for Security and Development Policy, Sweden)

Shinichiro Tabata (Slavic Research Center, Hokkaido University, Japan)

Akira Uegaki (Seinangakuin University, Japan)

Masashi Hoshino (Slavic Research Center, Hokkaido University, Japan)

16:00-18:00 *Session 3 “Strategic Perspective and Future Dynamism” (Round Table)*

Chair: **Akihiro Iwashita** (Slavic Research Center, Hokkaido University, Japan)

Monika Chansoria (Centre for Land Warfare Studies, India)

H. S. Prabhakar (Jawaharlal Nehru University, India)

Zhao Gancheng (Shanghai Institute for International Studies, China)

Shinichi Ogawa (Ritsumeikan Asia Pacific University, Japan)

Eiichi Katahara (National Institute for Defense Studies, Japan)

Satoru Nagao (Gakushuin University, Japan)

18:00-18:30 *Closing Remarks*

* 報告の順序は、報告のテーマによって、適宜変更されます。

8. 「生活空間、場の記憶、ジェンダー、探偵小説：ユーラシア比較文化の試み」

新学術第6班では、文化のさまざまな側面に焦点をあてて、ロシア・中国・インドの比較研究を行っています。今回の研究会では、生活誌、探偵小説、観光、ジェンダーというテーマでそれぞれ3地域の研究者を集めてセッションを組織しました。また地域大国の空間表象と関連の深い催しとして、ロシアにおける南方表象の研究会を合わせて開催します。最終セッションでは、第6班の海外調査旅行についての報告や、最終成果の出版に向けた中間報告が行われます。この研究会は新学術領域研究第4班「帝国の崩壊・再編と世界システム」および基盤研究B「近代以降のロシア文化における「南方」表象の総合的研究」(代表：中村唯史)との共催によるものです。[越野]

日時：2012年3月3日(土)・4日(日)

場所：北海道大学・スラブ研究センター大会議室

3月3日(土) 10:20~18:00

10:20-10:30 開会挨拶

10:30-12:30 第1セッション 空間・生活・まなざし

岡光信子(東北大学)「インドの伝統医療と現代：タミルナードゥ州のナートゥウ・マ
ンドゥ(Nattu Maruntu, Local Medicine)を中心に」

高山陽子(亜細亜大学)「中国の革命聖地」

塚崎今日子(札幌大学)「極北へのまなざし」

司会：後藤正憲(SRC)

コメンテーター：村田雄二郎(東京大)

13:30-15:30 第2セッション 探偵小説の比較研究

波多野健(ミステリ評論家)「インドにおける推理小説の受容と変容：二重構造は解消に
向かうのか？」

藤井得弘(北海道大学)「清末民初探偵小説における伝統小説との連続と断絶」

久野康彦(東京大学)「ロシアの探偵小説の誕生と発展：18世紀末から1920年代まで」

司会：越野剛(SRC)

コメンテーター：諸岡卓真(北海道大学)・大森滋樹(ミステリ評論家)

15:45-17:45 第3セッション 世界遺産は誰のもの？—ポリティクス・記憶・表象

小林宏至(首都大学東京)「中国における中原文化と表象のポリティクス：福建土楼の世
界文化遺産登録をめぐって」

前島訓子(名古屋大学)「インド「仏教聖地」と世界遺産」

高橋沙奈美(筑波大学)「ロシア・ソロフキ島における政情(ポリチカ)と詩情(ポエチ
カ)」

司会：TBA

コメンテーター：杉本良男(国立民族学博物館)

3月4日(日) 10:30~17:00

10:30-12:00 第4セッション 南方表象研究

鳥山祐介(千葉大学)「1790-1800年代のロシアの旅行記に見る『南方ロシア』表象」

Tsyplma Darieva (筑波大学) “Locating transnational sacred places: The Blue mosque in post-socialist Yerevan” (in English)

司会：中村唯史 (山形大学)

コメンテーター：望月哲男 (SRC), Guchnova, Elza-Bail (SRC)

13:00-15:00 第5セッション 実践と表象の男性性／女性性

前田しほ (SRC) 「現代ロシア文化におけるマスキュリニティ：不在の父をめぐって」

常田夕美子 (大阪大学) 「現代インド女性とポストコロニアル状況」

田村 容子 (福井大学) 「現代中国演劇にみるジェンダーと女性の身体」

司会：小松久恵 (SRC)

コメンテーター：井上貴子 (大東文化大学)

15:15-17:00 第6班 成果報告

15:15-16:15 最終成果の出版に向けて

望月哲男 (SRC) 「文化横断力としての思想：ロシアとインドにおける非暴力思想の反響」

16:15-17:00 「インドシンポ報告」前田しほ, 望月哲男, (協力：杉本良男, 井上貴子)

「中国東北地方調査準備報告」村田雄二郎, 前田しほ

9. 各班研究会情報

第1班, 第3班

「ユーラシアをめぐる日印対話Ⅱ：中国との関係にむけて」

日時：2012年2月27日(月) 9:30～18:30

場所：北海道大学スラブ研究センター4階大会議室

第2班

SRC 新学術領域研究セミナー

題目：“Reform of the National Police in the Republic of Georgia since 2003: Causes, Consequences, and Lessons”

報告者：Matthew A. Light (Assistant Professor Centre for European, Russian, and Eurasian Studies University of Toronto)

日時：2012年2月22日（水）17：00～18：30

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

第4班

研究会

題目：「戦時期日本の「喇嘛教」工作」

報告者：高本康子（第4班プロジェクト研究員）

日時：2012年3月21日（水）16：30～18：00

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

第5班

研究会

日時：2012年3月2日（金）時間は以下の通り

場所：北海道大学スラブ研究センター4階大会議室

10：00～12：00 Engseng HO氏講演会

14：00～15：30 How-to-get-published Seminar

16：00～18：00 研究会 *Mobile Peoples and Diasporas as Imperial Legacies*

1. 題目：“Khakimov of Arabia: Muslim Intermediaries for the Russian Empire and the USSR in Arabia, 1890s-1930s”

報告者：NAGANAWA Norihiro (SRC)

2. 題目：“To be or not to be?: The Representations of 'Homeland' in Contemporary British Asian Writers”

報告者：KOMATSU Hisae (SRC)

* この研究会はインターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）「博士号取得後のスラブ・ユーラシア研究者の能力高度化プログラム：跨境的アプローチと比較分析」との共催によるものであり、2月29日・3月1日にはこれと関連して若手研究者のための英語論文ライティングセミナーが行われます。

第6班

研究会

「生活空間、場の記憶、ジェンダー、探偵小説：ユーラシア比較文化の試み」（第4班との共催）

日時：2012年3月3日（土）10：20～18：00，3月4日（日）10：30～17：00

場所：北海道大学スラブ研究センター4階大会議室

総括班

SRC 新学術領域研究セミナー

題目：Russia's identity in international relations: images, perceptions, misperceptions

報告者：Ray Taras

日時：2012年3月13日（火）13:30～15:00

場所：北海道大学 スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学スラブ研究センター